八月十五日、横小で成人式開催

積極的に考え行動する情熱を

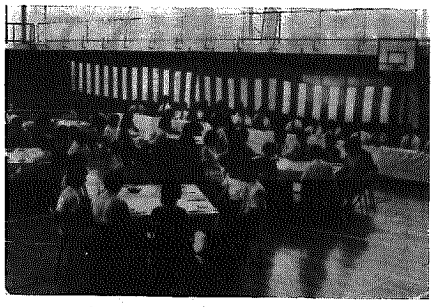
九十二名（内、女性四十六名）が集い語り合う

今年の成人式は昨年と同じように、成人者同志が語り合う〝集いの場〟に重点をおきました。

来賓には、村長、県議、村議をはじめ多くの方々から来ていただきましたが祝辞は四人の方々にお願いしました。

その一人、選挙管理委員長の小林広次さんは「若者の魅力は、何よりも無限の可能性を秘めていることだと思います。それは未来にむかっての冒険心であり、何時の時代も又どこの国でも、そのヤングパワーが社会や文化の発展の原動力となっています。各々自分の志向にむかって、又新有権者としての自覚を踏え、積極的に考え行動する情熱を期待するものであります。」

出席者をはげましてくださいました。祝辞が終ってから成人者の代表者から所感発表を述べていただきました。そのいくつかを要約して紹介しましょう。



祝辞に耳をかたむける成人者

はたちの声を聞いて下さい

二本木　渋谷芳樹

成人式、そのものに強く感じなかったわけですが、去る経済、文化と全く各分野に、減速経済の影響が著しく現われている今日、結集された一票の集りが、日本の明暗を方向づける結果を生むものと認識した時、私の一票の重さ、そう考えた時、一瞬電気でやはじかれた様な感激を覚えました。

私は、現時代がかっての戦国時代の始めの頃によく似ていると思うのです。いろ〳〵の秩序、機構、組織などが妥当性を失い、既成の価値感というものが失ってしまった不確かな時代だと思います。

こういう時代であるから、私は自分を見失わないために確固たる信念に基づく目的を持ち邁進しなければならないと思います。このような混とんとした時代に、私が思う一つは、地球の距離が著しく短縮した結果、世界との交流が増々活発化しているという事実、ですから国内に限らず国際情勢について絶えず関心を向け世界とのコミニケーションをより密にすることがより一層重要になってくると思うのです。

七月十日行なわれた参議院選挙に、初めて投票しました。この時、私の一票が、議会制民主々義政治体制の中で、しかも保革伯仲のさなか、社会

工業資源、食糧の大半を外国に依存している日本が、まがりなりにも工業先進国として維持することができたのは世界とのかかわり合いを少なからずやって来たからだと思うのです。

もう一点は、人間もやはり生物であるという原点に立ち謙虚な姿勢になることが必要だと思うのです。私達のおかれた環境が人間ばかりでなく他の生物にもあると思うのです。

要は、人間も生物体系の一構成員であり、他の生物に温恵を与えたり、又与えられたりする相互依存関係にあることを理解すべきではないでしょうか。こういう態度で望むことが私達に課せられた大きな使命であると思います。

木津　大竹久子

人の前に出て話をするのは初めてですし、とてもロベたなので、うまく言いませんがさっと流して聞いていただけたら幸いです。

私の一番身の回りのことと言ったらバレーボールしかないようです。先月、下越大会が行なわれ、決勝には敗れてしまいましたけど、悔いのない試合でした。「あゝバレーやってよかった」と、はじめて勝つことの味を知りました。

中学二年から、現在まで七年間バレーをやってきましたがいつも一、二回戦で負けていたんです。

スポーツだけじゃなくて、なにゝ対してでも共通することだと思いますが、回りがあってこそ自分があるのだと思います。回りが不幸で、何で自分が幸福でありましょう。

回りを大切にしなければいけないと思います。人を思いやるやさしい気持、物事に対する誠意、熱意はいつまでも大切にして歩んでいきたいと思います。

成人になった自覚とともに人間性を広げていきたいと思います。

小杉　坂内久美子

同級生同志のなつかしい語り合い

私は、高校を卒業して、食品の卸問屋に就職しました。

学生時代とは、全然違った社会で働くということはやはり大変でした社会に出ることは、うすい暗い洞屈の中へ入るようなものでした。毎日が緊張の連続でした。

常に人は、前を見ていなければならないのに、私はいつも後ろばかり振り返るだけで前に進もうとしなかったのです。社会人として働くことで、一番考えさせられたことは、やはり人間関係でした。人に誤解されるのはつらいものです。そんな時、誰れかが支えとなってくれました。時によっては、それは両親であり、妹であり、友だちであったりします。私がこうしていられるのもまわりの方が助けてくれたからだと思っています。

ただ、私が今感じていることの一つに、夢を忘れてしまっている、そんな気がします社会に出て、現実に即しているからかもしれませんが、毎日が惰性になってるからです私が思うに、どんな人であっても、いくつになっても心に夢を持ちつづけることです。たとえその夢が実らなくてもいいと思うのです。その夢が自分を刺激して、はりのある生活ができると思うのです。

私は、今までの二十年間というものを土台にして、新しい気持で、ゼロから歩きはじめようと思います。毎日を自分なりに精一杯努力して、夢を持って生きていくように頑張りたいと思います。

横越　長谷部正子

今日まで、大人になりたくないと思っていた私は、成人式をむかえる事を、他人事のように思っていました。それだけに、成人になって考え思う事は、何も浮かびませんでした。

社会に対して無知の自分が成人になり、あらゆる面において自分の行動の責任が、今までのように安易に考えられなくなったという事で、喜びよりも、むしろ不安な気持になりました。そして、できるものなら敬遠したいという、ずるい考えをもったものでした。しかし、このような事を考えても、自然に社会の人々はいつの日か、大人として認めてくれるということになると、自分が大人というものを理解しないうちに、この集団に存在することは、あまり喜ばしいものではないと思います。

二〇年間の間にいろ〳〵の事が沢山ありました。悩み、悲しみ、そして笑いのうちに過して来たけれど、自分で納得のいくような事はまだなに一つしてないような気がします。仕方のないことかもしれませんが、とてもやりきれない気がします。

私はこの四月で二十一才になりました。けれどもけっして自分を変えたいとは思いません。いまのまゝじゃいけないかもしれませんが、今のこの時を大切にしたいと思います。

横越　熊倉智恵子

成人式にあたってなにか一言いってほしいといわれたんですけど、ここ毎日青年会の準備でいそがしく考えているひまがなかったんです。

成人の所感といっても、とてもむずかしい事です。

人は、何段階も隔て行くので責任感を喪んじているし、思想的にもしっかりした考えを持っています。それに、訪問先の説明の中に四人組による迫害が語られ、北京大学も同様で、李さんはそのために卒業が半年位遅れるかもしれないといっていました。

時間的に短く、まだ話すことはいっぱいあったのにとても残念でした。

でも今までのように通訳の人を入れた対話じゃなかったので、その人の思っていることを直接肌に感じ、国民一人一人が毛主席の教えに基づき自分の国を守ることを真剣に考えていることがわかりました。

このような機会を大切にしこれからは統一見解じゃなく個人的な意見、考えを聞くようにしたいと思いました。

女性ははたちをすぎると、年をとるのが早いと言われていますが、もっともですねえもうそろ〳〵結婚する人も目につきますし、実際結婚の事もちょっぴり考えたりしています。自分の生活の中で、何かよろこびを得たいものだと思っておりますが、なかなかむずかしいものです。

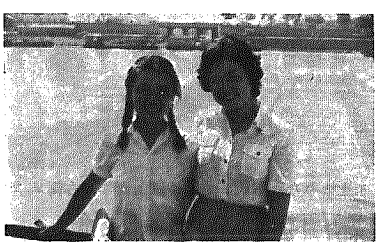
なんとなく生きて、なんとなく年をとって、まわりに流されまい、流されまいとしている自分が一番まわりに流されているような気がします。

もう少し、自分なりの生き方の工夫をしてみたい、と思っています。

中国を訪問して　①

横越（川）佐久間久子

前におしらせしましたが佐久間久子さんが、日青協の新潟県代表として中国を訪問してきました。その感想を三回にわたって紹介します。今回はその一回目です。



ハルピンの松花江の川べりで
友達になつた中国女性とにつこり

第十次日青協訪中代表団は柳本会長はじめ、女性五人を含む二十一人で羽田を出発しました。

四時間余りで北京空港に到着するのには、新潟から東京までの特急の時間と同じだと思うと、なんて近い国なんだろうという実感がありました。北京空港に到着し、宿舎に向う車中から道路沿いの並木の美しさが目につきました。

その日の北京の気温がだいたい三十度位で日本とあまり変わりなく、むしろ新潟の方が湿度が高くて過しにくいと思う位です。

その時にはまだ訪問地など具体的なことは決ってなく、翌日の夜、廖承志中日友好協会会長の歓迎レセプション後にほとんど決定しました。

北京―瀋陽―ハルピン―大慶―ハルピン―北京と日程の半分を東北で過し、後半は南京―上海、そして最後の三日半を北京ということでした。

北京には二泊し、その間歴史博物館、故宮、農業展覧館の見学、そして北京大学を訪問し、日本語科二年の学生と一対一で話し合うことができました。その学生、李桂蘭さんは入学から今までのいきさつを話してくれました。

入学前は公司で働いていて自分で大学に行きたいという意志を固めての公司の指導部の同意を得、大衆に推せんされ、学校の再審査に合格していたい今日に至っていると説明してくれました。

ここで、試験に合格し、条件がそろっていればだれでも自由に大学へ行ける日本との違いを見い出すことができました。中国では、大学に行く